

平成16年度 区内野鳥生息状況

野鳥生息調査結果

(1) 目的

江東区環境基本計画に基づき、野鳥の生息調査を実施することにより、江東区内の野鳥生息状況を定期的に把握し、野生生物保護と生態系保全の基礎資料としています。平成16年度は水鳥の調査を行いました。

(2) 調査期間

平成16年6月から平成17年2月まで



ツバメの雛

(3) 調査地域(平成16年度)

野鳥生息調査地域と調査地域の特性

- 1 都立亀戸中央公園 [旧中川沿いの都市公園]
- 2 都立猿江恩賜公園 [横十間川沿いの都市公園]
- 3 仙台堀・横十間川親水公園 [江東内河川沿いの親水公園]
- 4 荒川(新木場)周辺 [大きな河川とその河川敷の水辺公園]
- 5 豊洲運河(越中島)周辺 [大きな河川とその河川敷の水辺公園]
- 6 若洲調整池 [若洲ゴルフ場浸出水の調整池]

(4) 調査方法

定点センサス法またはロードセンサス法により観察される水鳥の種類と出現数を記録しました。なお、本調査ではカイツブリ科、ウ科、サギ科、ガンカモ科、クイナ科、チドリ科、シギ科及びカモメ科の8科に属する野鳥を水鳥としました。

(5) 調査結果

【1】 概要

出現した水鳥の種類は26種類でのべ7,848羽でした。科別では、出現したのは8科であり、カイツブリ科2種類14羽、ウ科1種類368羽(5%)、サギ科4種類75羽(1%)、ガンカモ科10種類5,970羽(76%)、クイナ科1種類8羽、チドリ科1種類1羽、シギ科4種類23羽及びカモメ科3種類1,389羽(18%)でした。ガンカモ科の水鳥が出現種類及び出現数ともに最大となり、冬季の水鳥を代表することがわかりました。



ホシハジロ

出現した上位5種類は、(1)ホシハジロ3,064羽(39%)、(2)オナガガモ965羽(12%)、(3)ウミネコ857羽(11%)、(4)カルガモ595羽(8%)、(5)ユリカモメ523羽(7%)の順であり、ガンカモ科のうちホシハジロとオナガガモの2種類で出現総数の51%に達しました。

反対にチドリ科とシギ科の出現数は合計で24羽(0.3%)と少なく、これらの水鳥が生息できる環境が極めて少ないことがわかりました。

【2】 月別調査結果



カルガモ

ア. 6月の調査結果

出現種類5種で172羽であり、この時季は水鳥が少なく、カモ類はカルガモのみ出現し、仙台堀・横十間川親水公園で49羽、猿江恩賜公園で7羽でしたが、これらの地域では繁殖していることが確認されました。カワウは4地域で出現し、荒川で70羽、豊洲運河で34羽でした。豊洲運河ではコチドリが1羽出現しました。

イ. 9月の調査結果

出現種類12種で1,102羽であり、6月と比べて種類数、出現数ともに増加しました。カモ類はカルガモのほかマガモ、コガモ、オナガガモが出現しました。秋のシギ・チドリの渡りの季節であるため、キョウジョシギ、キアシシギ、イソシギが少数ながら出現しました。カモメ類ではウミネコが豊洲運河で659羽、荒川で197羽が出現しました。越冬のため南下する途中と考えられます。



オナガガモ



ユリカモメ

ウ. 12月の調査結果

出現種類21種で2,726羽であり、9月と比べて種類数、出現数ともに大きく増加しました。カモ類などの水鳥が越冬のために区内の水辺に飛来したのです。とくにカモ類は9月が4種類、羽であったのに対して12月は10種類、2,335羽に激増しました。出現数の上位3種は、ホシハジロが1,410羽で60%、オナガガモが410羽で18%、キンクロハジロとカルガモが6%でした。カルガモは区内では年間を通じて100羽ほど出現しますが、冬季には区外からの越冬組が50羽ほど加わるようです。カモ類

では、越冬するユリカモメが243羽出現しました。また、内湾に生息するカイツブリ類のカムリカイツブリが3羽出現しました。サギ類も4種類出現しました。冬の水辺は野鳥でにぎやかです。



キンクロハジロ

エ. 1月の調査結果

出現種類21種で2,553羽であり、12月と同程度の種類数、出現数となりました。このうちカモ類は1月と同じ10種類で、出現数もほぼ同程度の2,235羽であり、安定していて、調査した6ヶ所での冬季のカモ類の生息数はこの程度であることがわかりました。カモの構成比はホシハジロ55%、キンクロハジロ、カルガモ、オカヨシガモ、ヒドリガモ、オナガガモがそれぞれ約6%でした。オナガガモの出現数が減ったほかは構成

比に大きな変化はありませんでした。カモ類では、ユリカモメが251羽出現し、12月とほぼ同数でした。カイツブリ類のカムリカイツブリも12月に続いて1羽出現しました。

オ. 2月の調査結果

出現種類18種で1,295羽であり、1月と比べて3種類減少し、出現数も940羽減少しました。これはホシハジロが1月と比べて1134羽減少(80%)したためです。他のカモ類の出現数に大きな変化はありませんでした。カモ類では、ユリカモメが29羽で、1月と比べて222羽(88%)減少しました。そろそろ北帰行が始まったと考えられます。カイツブリ類のカムリカイツブリも3ヶ月続いて出現しました(6羽)。



カムリカイツブリ

平成16年度 月別水鳥調査結果表

No.	水鳥名	観 察 月					計
		6 月	9 月	1 2 月	1 月	2 月	
1	カイツブリ			3	1		4
2	ハジロカイツブリ						0
3	カンムリカイツブリ			3	1	6	10
4	カワウ	107	118	90	37	16	368
5	ダイサギ			1			1
6	チュウサギ						0
7	コサギ		7	9	4	3	23
8	ゴイサギ	1	2	14	10	3	30
9	アオサギ	1	10	8	1	1	21
10	マガモ		2	12	18	9	41
11	カルガモ	62	91	140	170	132	595
12	コガモ		2	10	7	7	26
13	オカヨシガモ			50	147	48	245
14	ヒドリガモ			106	164	189	459
15	オナガガモ		3	410	162	390	965
16	ハシビロガモ			10	3		13
17	ホシハジロ			1,410	1,394	260	3,064
18	キンクロハジロ			151	73	186	410
19	スズガモ			48	97	7	152
20	オオバン			3	1	4	8
21	コチドリ	1					1
22	シロチドリ						0
23	メダイチドリ						0
24	ムナグロ						0
25	キョウジョシギ		1				1
26	ハマシギ				8		8
27	キアシシギ		3				3
28	イソシギ		7	1	3		11
29	ソリハシシギ						0
30	チュウシャクシギ						0
31	セイタカシギ						0
32	セグロカモメ			4	1	4	9
33	ユリカモメ			243	251	29	523
34	ウミネコ		856			1	857
35	アジサシ						0
36	コアジサシ						0
出 現 数 計		172	1,102	2,726	2,553	1,295	7,848
出 現 種 類 数		5	12	21	21	18	26

【3】 地域別調査結果

ア. 亀戸中央公園

年間で9種、のべ779羽が出現しました。公園東端を流れる旧中川の河川敷の整備により親水機能が向上し、12月から2月までの冬季にカモ類やユリカモメが集まります。とくにオナガガモが多く見られるのがこの特徴であって、12月には238羽が出現しました。またユリカモメは1月に190羽が出現しました。



カイツブリ

イ. 猿江恩賜公園

年間で9種、のべ751羽が出現しました。公園内に3ヶ所の池、東側に横十間川があり、冬季にカモ類が集まるほか、カルガモが年間を通じて出現しここで繁殖が確認されました。12月にはオナガガモ125羽、カルガモ46羽、キンクロハジロ42羽が出現しました。また少数ながらハシビロガモ、コガモ、マガモが出現したほか、ユリカモメが12月に113羽が出現しました。

ウ. 仙台堀・横十間川親水公園

年間で9種、のべ476羽が出現しました。冬季に公園中央の野鳥の島周辺や、その西側の仙台堀川にカモ類が多く出現します。もっとも多いのはカルガモで、1月に72羽が出現しました。カルガモは初夏にここで繁殖しています。つぎに多いのはキンクロハジロで、12月に67羽が出現しました。野鳥の島ではゴイサギ、アオサギ、カワウが見られました。

エ. 豊洲運河(越中島周辺)

年間で20種、のべ2,032羽が出現しました。調査した6カ所の中で出現した水鳥の種類が最も多く、8種類のカモ類のほか、少数ながらカイツブリ、カワウ、サギ類、オオバン、シギ類、カモメ類が出現しました。カモ類ではヒドリガモ(12月に106羽)、キンクロハジロ(2月に149羽)、オカヨシガモ(1月に90羽)、ホシハジロ(2月に100羽)が出現したほか、内湾に生息するスズガモ(12月に47羽)が見られました。他の地域では多く観察されるカルガモはここでは最大で15羽(9月)程度でした。カモ類以外ではオオバン、カイツブリが冬季に出現したほか、シギ類のキョウジョシギ、ハマシギ、イソシギ、チドリ類のコチドリが出現しました。ウミネコは9月に659羽を観察しました。南への渡りの途中に滞在したものと考えられます。カワウは年間を通じて出現しました。

オ. 荒川(新木場周辺)

年間で14種、のべ637羽が出現しました。ここは荒川の河口にあたり、内湾の水鳥が出現します。出現したカモ類は4種類で、2月にヒドリガモ166羽、1月にスズガモ81羽、オカヨシガモ57羽が出現したほかにカルガモが2月に2羽でした。

カモ類以外では9月にウミネコが197羽、アオサギとコサギが年間を通じて数羽出現しました。また、内湾に生息するカイツブリ類のカンムリカイツブリが冬季に数羽出現したのがこの特色です。シギ類ではキアシシギとイソシギがわずかに出現しました。カワウは年間を通じて出現しました。



コサギ

カ. 若洲調整池

年間で13種、のべ3,135羽が出現し、調査した地域の中でもっとも羽数が多くなりました。ここは周囲をフェンス等で囲まれた調整池であるので、冬季以外は水鳥が少ないが、冬季にはたくさんのカモ類が飛来し、彼らの休息地となっています。もっとも多いのはホシハジロで、1月に1,348羽が出現しました。その他のカモ類としてはカルガモ、オナガガモ、オカヨシガモ、マガモ、コガモ、ハシビロガモ、キンクロハジロが出現しました。

カモ類以外ではカワウ、コサギ、アオサギ、オオバン、イソシギが出現しました。



オオバン

平成16年度 地域別水鳥出現数調査表

No.	水鳥名	観察場所						計
		亀戸	猿江	仙台堀川 横十間川	荒川 新木場周辺	豊洲運河 越中島周辺	若洲調整池	
1	カイツブリ	0	0	0	3	1	0	4
2	ハジロカイツブリ	0	0	0	0	0	0	0
3	カンムリカイツブリ	0	0	0	10	0	0	10
4	カワウ	3	1	16	100	245	3	368
5	ダイサギ	0	0	0	1	0	0	1
6	チュウサギ	0	0	0	0	0	0	0
7	コサギ	2	2	4	11	3	1	23
8	ゴイサギ	0	0	30	0	0	0	30
9	アオサギ	0	0	5	4	10	2	21
10	マガモ	0	2	3	0	14	22	41
11	カルガモ	2	160	257	2	25	149	595
12	コガモ	0	1	0	0	0	25	26
13	オカヨシガモ	0	0	0	88	143	14	245
14	ヒドリガモ	2	0	0	166	291	0	459
15	オナガガモ	430	339	0	0	96	100	965
16	ハシビロガモ	0	3	0	0	0	10	13
17	ホシハジロ	8	0	23	0	237	2,796	3,064
18	キンクロハジロ	3	72	129	0	198	8	410
19	スズガモ	0	0	0	86	66	0	152
20	オオバン	0	0	0	0	7	1	8
21	コチドリ	0	0	0	0	1	0	1
22	シロチドリ	0	0	0	0	0	0	0
23	メダイチドリ	0	0	0	0	0	0	0
24	ムナグロ	0	0	0	0	0	0	0
25	キョウジョシギ	0	0	0	0	1	0	1
26	ハマシギ	0	0	0	0	8	0	8
27	キアシシギ	0	0	0	3	0	0	3
28	イソシギ	2	0	0	2	3	4	11
29	ソリハシシギ	0	0	0	0	0	0	0
30	チュウシャクシギ	0	0	0	0	0	0	0
31	セイタカシギ	0	0	0	0	0	0	0
32	セグロカモメ	0	0	0	1	8	0	9
33	ユリカモメ	327	171	9	0	16	0	523
34	ウミネコ	0	0	0	198	659	0	857
35	アジサシ	0	0	0	0	0	0	0
36	コアジサシ	0	0	0	0	0	0	0
出現数計		779	751	476	675	2,032	3,135	7,848
出現種類数		9	9	9	14	20	13	26

仙台堀川・横十間川親水公園では、カワセミやジョウビタキが見られることもあります。



カワセミ



ジョウビタキ